

新学習指導要領改訂ポイント冊子

社会科 **小中高の接続と**
「社会的な見方・考え方」

監修：広島大学准教授 永田忠道

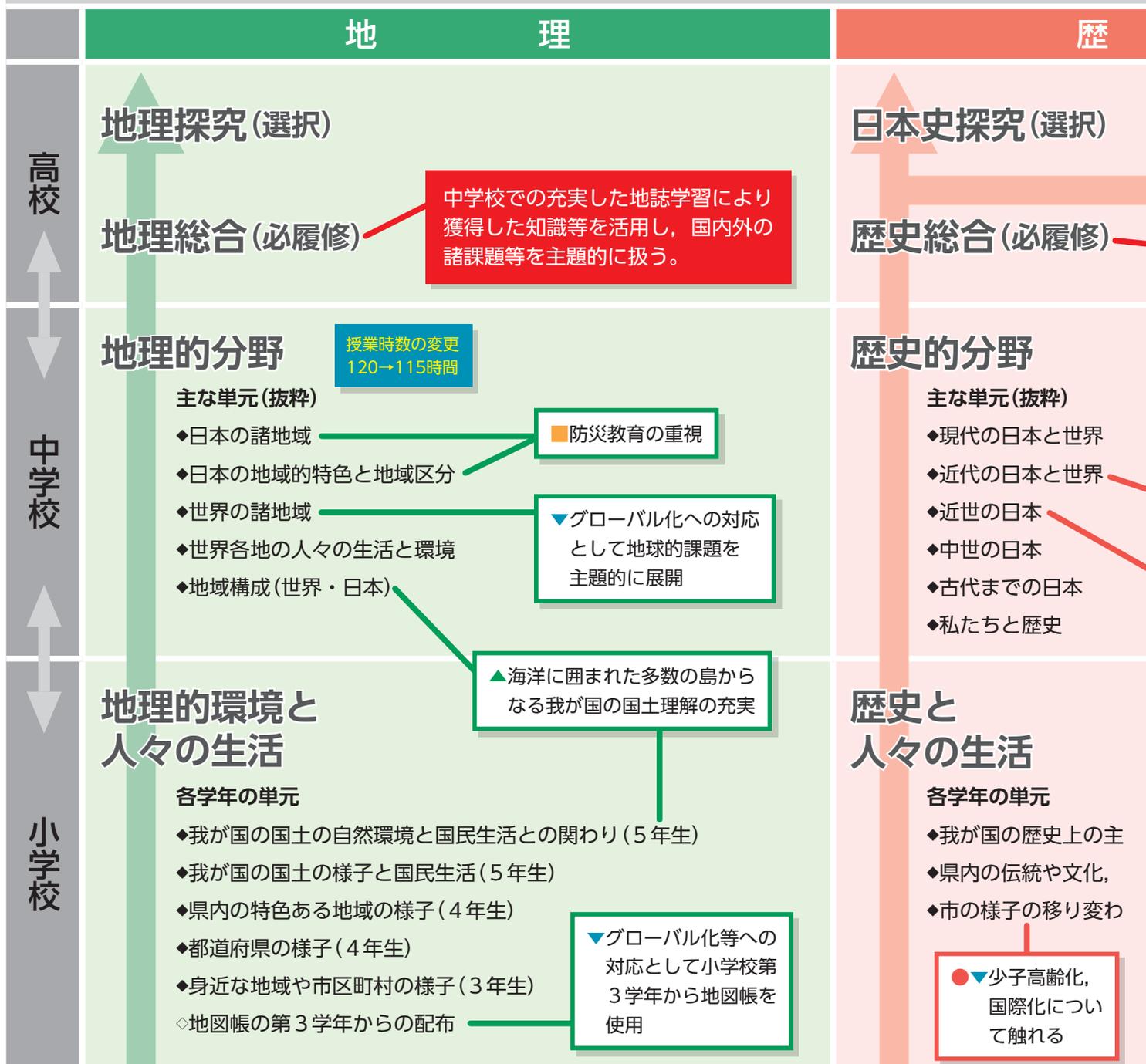
【社会科】小中高のつながり～小中を軸に～	……	p.2
小中高の接続に関して	……	p.4
社会的な見方・考え方（追究の視点や方法）	……	p.5
新学習指導要領全体の改訂ポイント	……	p.6
小学校社会科の改訂ポイント	……	p.7
中学校地理的分野の改訂ポイント	……	p.8
中学校歴史的分野の改訂ポイント	……	p.9
中学校公民的分野の改訂ポイント	……	p.10
高等学校地理歴史科，公民科の科目の変化	……	p.11
指導者専用サイトのご案内	……	p.12

【社会科】小中高のつながり～小中を軸に～

小学校社会科 中学校で学ぶ内容との関連を考慮して、「**地理的環境と人々の生活**」,**「歴史と人々の生活**」,**「現代社会の仕組みや働きと人々の生活**」に区分された。

中学校社会科 「地理」「歴史」「公民」の各分野制は変わらず。ただし、下表に示す**高校の新科目**への**接続を見据えた改訂**が施されている。

【社会科】小中高のつながりイメージ



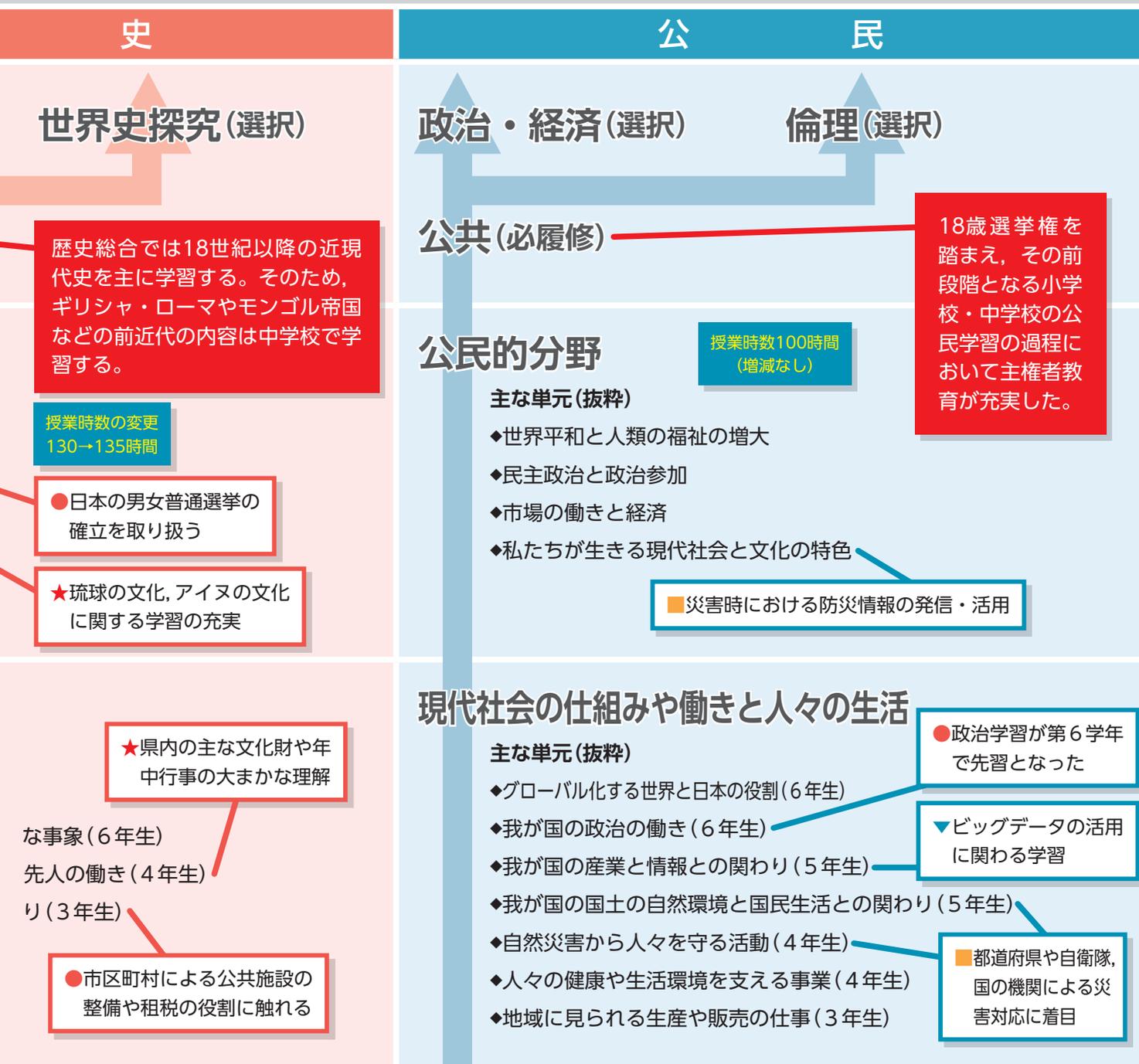
小学校第3学年から高校までの全ての児童生徒が一貫して、地理・歴史・公民に関する内容を必ず学習するカリキュラム体制が復活することとなる。

高校地理歴史科・公民科 以下のように変更される。

- ①「**地理総合**」，「**歴史総合**」，「**公共**」の三科目が必修となる。
- ②地理歴史科では，A科目→総合（「**地理総合**」，「**歴史総合**」），
B科目→探究（「**地理探究**」，「**日本史探究**」，「**世界史探究**」）となる。
- ③公民科では，「現代社会」にかわり「**公共**」が新設される。

学習内容の改善点(抜粋)

- 主権者教育の充実
- 防災教育の充実
- ▲海洋や国土教育の充実
- ▼グローバル化等への対応
- ★伝統や文化に関する学習の充実



※小学校学習指導要領に関してはp.7に、中学校学習指導要領に関してはp.8-10にそれぞれ改訂ポイントを示しています。

小中高の接続に関して

学校段階間において地理・歴史・公民が必修化

新学習指導要領では、小学校社会科の各内容は、中学校で学ぶ内容との関連を考慮して、「**地理的環境と人々の生活**」、「**歴史と人々の生活**」、「**現代社会の仕組みや働きと人々の生活**」に区分された。

中学校社会科は、これまでと同じく「地理」、「歴史」、「公民」の各分野制のもとでの学習が進められるが、後述の**高等学校の新科目への接続を見据えた改訂**が施されていることに着目する必要がある。

高等学校地理歴史科と公民科は、これまでの「地理」、「世界史」、「日本史」のA科目にかわり「**地理総合**」、「**歴史総合**」、B科目にかわり「**地理探究**」、「**世界史探究**」、「**日本史探究**」、「現代社会」にかわり「**公共**」がそれぞれ新しく設定される。また、これまで「世界史」のA科目もしくはB科目が必修科目とされてきたが、今後は「**地理総合**」、「**歴史総合**」、「**公共**」の三科目が**必修科目**となる。

これにより、**小学校第3学年から高等学校までの全ての児童生徒が一貫して、社会科及び地理・歴史・公民に関わる全てを必ず学習する**カリキュラム体制が復活することになる。

学校段階間の接続イメージ



学校段階間を通して育成が求められる「社会的な見方・考え方」

小中高の接続と一貫性に関しては、「社会的な見方・考え方」が重要な視点となる。「社会的な見方・考え方」は、小学校社会科、中学校社会科各分野、高等学校地理歴史科、公民科のそれぞれの特質に応じた「見方・考え方」の総称であり、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であると位置付けられた。

「社会的な見方・考え方」は、中学校社会科では本資料5-6ページの表に整理されたように社会的事象の具体的な「見方・考え方」として示され、学校段階間を貫く構成要素と位置付けられている。

新学習指導要領では、児童生徒が小中高一貫した学習を通して、学校での学習の中だけでなく、現実の社会生活の中においても、この「社会的な見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが期待されている。

これまで以上に役割が期待される地図帳

なお今後は、小中高全ての児童生徒が各段階の地図帳を携えることになる。学校段階が進むにしたがって、より地理や地図の専門性が高まってはいくが、どの段階の地図帳にも共通する普遍的な要素が組み込まれている。理想的には、小学校の地図帳を、中・高等学校それぞれの段階の地図帳と併用していくような活用が進むことも期待される。

さらに、小中高の3冊の地図帳が、社会科及び地理歴史科、公民科の授業、そして中・高等学校を卒業した後にも効果的に活用されるようになると、**地図帳が、小中高で一貫して育まれていく「社会的な見方・考え方」を、現実の生活の中においても自在に働かせるための欠かせないツール**となっていく。学校で使用した地図帳を、日々の生活の中でも身近に携え、生涯にわたり活用する市民が今後ますます増えていくことも期待される。

社会的な見方・考え方
(追究の視点や方法)

高等学校

地理歴史科

社会的事象の
地理的な見方・考え方

社会的事象を
位置や空間的な広がりに着目して捉え
地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて

公民科

人間と社会の在り方についての見方・考え方

社会的事象等を
倫理, 政治, 法, 経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え
よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて

地理歴史科

社会的事象の
歴史的な見方・考え方

社会的事象を
時期, 推移などに着目して捉え
類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして

社会科

公民的分野

現代社会の見方・考え方

社会的事象を
政治, 法, 経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え
よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて

地理的分野

社会的事象の
地理的な見方・考え方

社会的事象を
位置や空間的な広がりに着目して捉え
地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて

歴史的分野

社会的事象の
歴史的な見方・考え方

社会的事象を
時期, 推移などに着目して捉え
類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして

中学校

小学校

社会的事象の見方・考え方

社会的事象を
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係 } に着目して捉え
比較・分類したり総合したり
地域の人々や国民の生活と関連付けたりして

小学校(第3～6学年)

新学習指導要領全体の改訂ポイント

① 育成を目指す資質・能力の明確化

これまでの学習指導要領では、社会科で求められる知識を中心とした学習すべき内容が明示されてきた。これに対し新学習指導要領では、新たに育成を目指す資質・能力を明確化することを目的として、各教科で「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に基づいた目標が明記されることとなった。

社会科の教科目標では、柱書といわれる総括的な目標のもとに、三つの柱に基づいた(1)から(3)までの細分化された目標が示されることになった。社会科の内容についても、育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」についての内容が個別に示されている。この育成を目指す資質・能力の三つの柱は、今後、学習評価の観点としても機能することになる。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現が、求められている。この「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に関しては、これまでも小学校を中心に中学校においても積極的に進められてきているが、新学習指導要領をうけて、その取り組みの質をさらに向上させることが目指されることになる。

その際に、社会科では、新学習指導要領で明記された「社会的な見方・考え方（社会的事象の見方・考え方、社会的事象の地理的な見方・考え方、社会的事象の歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方）」を働かせることが重要となる。各教科等でも「見方・考え方」は示されており、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という点から見た、各教科等の特質に応じた独自の物事を捉える視点や考え方であるとされており、児童生徒が学校での学習の中だけでなく、現実の社会生活の中においても、この「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが、深い学びへの鍵となる。

社会的な見方・考え方のイメージ（4-5ページも参照）

地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

③ 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の推進

児童生徒が学校での学習の中だけでなく、現実の社会生活の中においても、「見方・考え方」を自在に働かせることができることを目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現には、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進が必要となる。各学校の実情に応じて社会科と他教科や総合的な学習の時間等との教科等横断的な学習の充実や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが期待されている。加えて、新学習指導要領を踏まえながらも、学校の特徴を生かした創意工夫を重ね、児童生徒や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して教育活動のさらなる充実を図ることが重要であり、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。

小学校社会科の改訂ポイント

- ・第3学年から地図帳の使用開始
- ・第3学年で租税の役割，少子高齢化，国際化に触れること
- ・第5学年でビッグデータを活用した新たな情報産業の学習
- ・第6学年で歴史学習の前に政治学習を先習すること

新学習指導要領における小学校社会科の大きな話題としては，長く第4学年から使われてきた教科用図書「地図」（以下，地図帳と略す）が，今後は社会科の学習が始まる第3学年から活用されることである。これまでも小学校の第3学年から方位や主な地図記号の学習が行われてきているが，今後は**自分たちの市の位置を確かめたり調べたりしたことを白地図にまとめたりする際に，必要となる方位や主な地図記号について，地図帳を参照しながら理解し活用できるようにすることが期待されている。**

主な地図記号については，身近な地域の様子を地図に表したり，地図から市の様子を読み取ったりする際に，地域の実態を踏まえて必要になるもの（学校，警察署，消防署，神社，寺院，市役所，図書館などの建物・施設），土地利用に関わるもの（田や畑など），交通に関わるもの（鉄道，駅，道路など）が取り扱われることとなる。

〈地図記号のでき方〉	
<p>かきやすい図形を使う</p> <p>市役所 町村役場 市の仕事の中心なので，中心の○を記号にしました。</p>	<p>使われている道具を図にしたもの</p> <p>けい棒 警察署 けいさつかんが持っているけい棒を図にしました。</p>
<p>物の一部を図にしたもの</p> <p>くわの木 くわ畑 歯車 工場</p>	<p>形をそのまま図にしたもの</p> <p>さすまた 消防署 むかし，火事を消すときに使った道具「さすまた」を図にしました。</p> <p>神社のどりいをそのまま記号にしました。</p>
<p>2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて，外国の方にもわかるような地図記号も考えられています。</p> <p>(れい) 郵便局 → 交番 → 博物館/美術館 → 病院</p>	

弊社編集の地域版地図の一部

3年生では，身近な地域に関わる地図記号を理解させることが重要である。

これは，小学校社会科の目標と内容が新たに第3学年と第4学年で別々に示され，**第3学年は児童生徒の生活する市区町村，第4学年では都道府県を中心とした配列となったこと**とも関係している。第3学年では，内容(1)「身近な地域や市の様子」から，内容(4)「市の子の移り変わり」まで，身近な市区町村の学習を通して，地図に慣れ親しむことになる。小学校の4年間を通して，子供たちの地図への興味・関心も，これまで以上に高まることが期待される。地図帳の性質上，詳細な地図が掲載されるのは，事例地や一部の市区町村のみになるが，第3学年では，各地の市区町村地図も別途に用意の上で，地図帳と対応するような学習展開も望まれるところである。例えば，土地利用を表現した地図，農業がさかんだったところが住宅地に変わったことなどの分かる新旧の比較地図，交通網の変遷や市の人口の増減を表現したような地図も用意できると，新たな第3学年の学習がより豊かになる。その

結果，地図帳や地図の利便性や面白さをこれまで以上につかめるようになると，その後の社会科学習の展開もさらに充実したものになる。

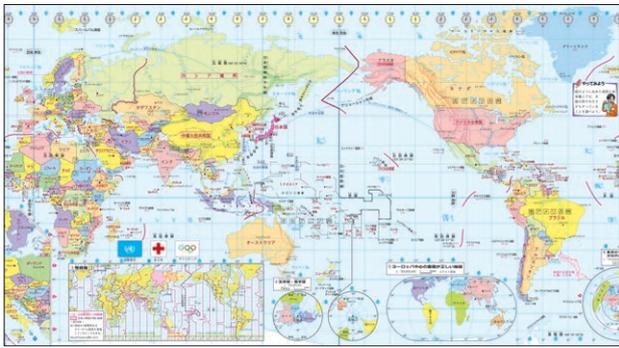
小学校社会科の改訂のその他のポイントとしては，第3学年では租税の役割に触れること，「地域の安全を守る働き」のうち「火災や事故などの防止」の学習（消防署や警察署）については**火災と事故のどちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫すること**，「市の子の移り変わり」で「人口」を取り上げる際には少子高齢化，国際化などに触れること，第4学年では自衛隊などの国の機関との関わりを取り上げること，第5学年の情報産業の取り扱いに大量の情報（ビッグデータ）の活用に関わる学習が求められていること，第6学年では歴史学習の前に政治学習を先習すること，などがあげられる。

中学校地理的分野の改訂ポイント

※以下引用する「地図帳」は平成31年発行「中学校社会科地図」(地図-724)指す。

- ・「世界の様々な地域」「日本の様々な地域」の二項目構成から、「世界と日本の地域構成」が冒頭に設定された三項目構成へ(時差学習などを第1学年初期に開始)
- ・地域調査に関わる内容構成の見直し
- ・「世界の諸地域」学習における地球的課題の視点の導入
- ・「日本の諸地域」学習における考察の仕方の柔軟化
- ・「日本の様々な地域」学習における防災学習の重視

地理的分野の改訂ポイントのうち、内容構成はこれまでの「世界の様々な地域」と「日本の様々な地域」との二項目構成から、「世界と日本の地域構成」が冒頭に設定された三項目構成へと改訂された。世界と日本の地域構成を個別にではなく、地理学習の冒頭で一体的に取り扱うことで、小学校社会科での学習経験と中学校での本格的な地理学習との円滑な接続・発展を見据えた構成となっている。



地図帳p.1-3①世界の国々

時差学習では、地図帳を開かせ、経度を指標に指導すると、生徒の気付きにつながる。

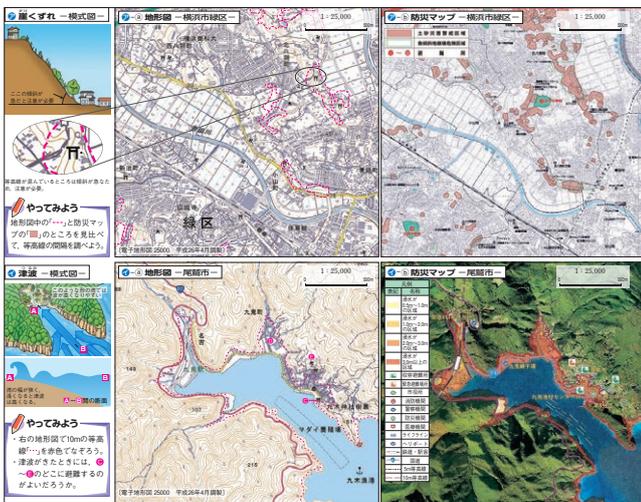
この点に関わり、**地理的分野の学習の初期に時差の学習**が設定されることになるが、ここでは時差を計算することよりも、中学校で新たに手にする地図帳を開き、緯度や経度を指標にすると、世界の多様性や結びつきとともに、時差などの差異にも気付かされるような授業展開が望まれる。地図帳を開いての時差の学習をもとに、地理の不思議さや楽しさを感じられるような地理的分野の学習の導入にしたいところである。

の導入、「日本の諸地域」学習における考察の仕方の柔軟化、「日本の様々な地域」の学習における防災学習の重視が改訂のポイントになっている。

その他、地理的分野では、地域調査に関わる内容構成の見直し、「世界の諸地域」学習における地球的課題の視点

この中で、「日本の様々な地域」学習における防災学習については、東日本大震災以降も頻発する自然災害について、我が国の自然災害や防災の実態などを踏まえた学習が可能となるように、内容大項目の「C 日本の様々な地域」の中で適宜、自然災害やそこでの防災の事例が取り上げられるようになった。日本全体と各地域での自然環境、自然災害、防災の取り組みの概観と具体的な特色、

生徒の生活圏における自然災害や防災を取り上げて危険性や安全に避難するために必要な情報の地図を作成する学習などが求められている。



地図帳p.144⑥地形図と防災マップを読みとり、災害から身を守るう生徒の生活圏における自然災害や防災を考えさせる例として、こうした資料図は有効である。

地図帳の防災に関する資料図一覧

ページ	タイトル
93	②神戸市付近のようす -災害へのそなえ-
112	⑤洪水への備え -濃尾平野の輪中地帯-
123	③都市型洪水へのそなえ
128	⑦震災からの復興のようす -岩手県宮古市(田老)-
143-144	日本の災害と防災

中学校歴史的分野の改訂ポイント

- ・ 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視
- ・ 歴史的分野の学習の構造化と焦点化
- ・ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実
- ・ 主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりについての学習の充実
- ・ 様々な伝統や文化の学習内容の充実

歴史的分野の改訂ポイントのうち、歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視に関しては、学習の中などで「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に沿った視点の例として示された「**時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなど**」を働かせることが求められている。

我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実については、高等学校地理歴史科においてこれまで必修となってきた「世界史A」と「世界史B」にかわり、必履修の「歴史総合」と選択となる「世界史探究」が設置されることを受けて、中学校の段階で我が国の歴史に間接的な影響を与えた世界の歴史についても充実させたと位置付けられている。

例えば、元寇をユーラシアの変化の中で捉える学習や、ムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせる学習などは、**地図帳を活用して、東アジアやユーラシア大陸の地図上での日本と世界の歴史との関係性などの考察を深める**

ような学習が期待される。また、琉球の国際的な役割や鎖国などの幕府の対外政策と対外関係については、これまでも教科書上にも地図資料が掲載されてはいるが、それとともに、**地図帳を活用して、より広い空間的な視点で日本と世界の歴史を考察していく**学びは、分野を超えた社会科らしい学習の実現にもつながるものである。



地図帳p.21①アジア州の自然・産業・暮らし

凡例の草地に注目すれば、ユーラシアに広がる草原に沿って元（モンゴル）が勢力を拡大していったことがわかる。



地図帳p.31-32①東アジアと日本 -大陸から日本を見わたす地図-

交流ルートをとれば、日本と大陸の結びつきや、琉球が日本・中国・朝鮮を結ぶ位置にあることが分かる。

様々な伝統や文化の学習内容の充実については、「琉球の文化」や「アイヌの文化」に触れることも示唆されている。

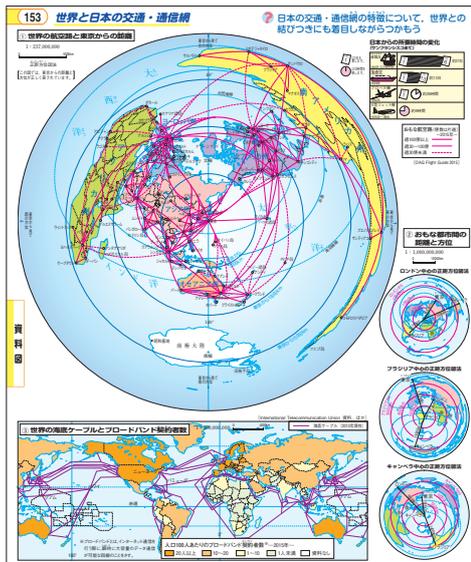
その他、歴史的分野では、歴史的分野の学習の構造化と焦点化、主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実が改訂のポイントになっている。

中学校公民的分野の改訂ポイント

- ・現代社会の特色，文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視
- ・現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実
- ・現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実
- ・社会に見られる課題を把握しその解決に向けて考察，構想したりする学習の重視
- ・国家間の相互の主権の尊重と協力，国家主権，国連における持続可能な開発のための取り組みに関する学習の重視
- ・課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視

公民的分野の改訂ポイントのうち，現代社会の特色，文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視については，情報化に関して「人工知能の急速な進化などによる産業や社会の構造的な変化などに関連付けたり，災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること」が求められており，地図帳の「**情報化・グローバル化 (p.153)**」などの活用が考えられる。他にも地図帳の「**少子高齢化と人口 (p.145)**」，日本の各地方ページ冒頭の祭りのイラストや「**日本の生活・文化 (p.155)**」，統計ページなどの活用が図られると効果的な学習が展開できる。

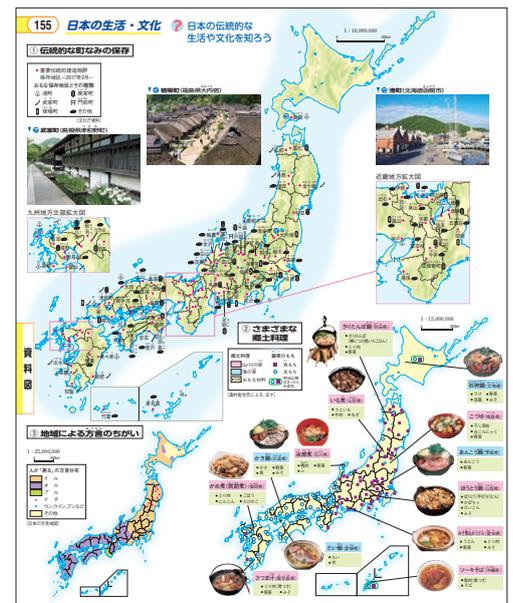
現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実については，公民的分野で働かせる「見方・考え方」が「現代社会の見方・考え方」として示されている（6ページも参照）。その中で「**対立と合意，効率と公正など**」を基礎となる概念的な枠組みとして，公民的分野の学習全体を通して働かせることが求められている。加えて経済，政治，国際社会に関わる概念などとして「**分業と交換，希少性など**」，「**個人の尊重と法の支配，民主主義など**」，「**協調，持続可能性など**」も示されることにより，課題の特質に応じた視点（概念など）に着目して考察したり，よりよい社会の構築に向けて，その課題の解決のための選択・判断に資する概念などを関連付けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」として働かせることが明確にされた。



地図帳p.153世界と日本の交通・通信網
情報化・グローバル化を視覚的に理解させるのに，この見開きの資料図は有効である。

これまでと同様に社会科のまとめとして位置付けられた内容項目「D 私たちと国際社会の諸課題」の「(2) よりよい社会を目指して」において，地理的分野などの学習の成果を生かすことが期待されており，具体的な地域の課題や防災情報の発信・活用に関しては，地図帳や地図が有効な資料としての機能を発揮できる。

その他，公民的分野では，現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実，社会に見られる課題を把握したり，その解決に向けて考察，構想したりする学習の重視，国家間の相互の主権の尊重と協力，国家主権，国連における持続可能な開発のための取り組みに関する学習の重視が改訂のポイントになっている。



地図帳p.155日本の生活・文化
「位置や空間の広がり」に着目しつつ，日本の生活・文化を考えさせるのに，この見開きの資料図は有効である。

高等学校地理歴史科，公民科の科目の変化

現 行				改訂後			
教科	科目	標準単位数	必履修科目	教科	科目	標準単位数	必履修科目
地理歴史	世界史A	2	○	地理歴史	地理総合	2	○
	世界史B	4			地理探究	3	○
	日本史A	2			歴史総合	2	
	日本史B	4			日本史探究	3	
	地理A	2			世界史探究	3	
	地理B	4					
公民	現代社会	2	「現代社会」 又は「倫理」 「政治・経済」	公民	公共	2	○
	倫理	2			倫理	2	
	政治・経済	2			政治・経済	2	

地理歴史科

公民科

現代社会の諸課題の解決を視野に入れて考察(各科目について主として「空間」・「時間」及び「現代社会の構造等」に着目)

地理総合

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する

歴史総合

歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、世界と其中における日本について、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する

公共

現代社会の諸課題の解決に向けて、自立するとともに他者と協働して、公共的な空間を作る主体として選択・判断の基準を身に付け、考察する

地理探究

世界の諸事象を系統的に、諸地域を地誌的に考察し、現代日本に求められる国土像の在り方について探究する

日本史探究

我が国の歴史の展開について、世界の歴史や歴史を構成する様々な要素に着目して、総合的に広く深く探究する

世界史探究

世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて、広く深く探究する

倫理

他者と共に生きる主体を育むために、現代に生きる人間の倫理的課題について探究し、自立して思索する

政治・経済

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育むために、現実社会の諸課題を広く深く探究する

必履修科目で育んだ理解や技能を用いて、より専門的な視野から広く深く探究

〈幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）〉

簡単!

指導者専用

サイトのご案内

無料!

帝国書院「指導者専用サイト」では、小・中学校に勤務されている先生方に向けて、社会科の授業をサポートするコンテンツを多数ご用意しています。ご登録・ご利用料は無料です。ぜひ、ご登録ください。



※画像はイメージです。

ご利用いただけるおもなコンテンツ

- その1 楽しく学べる「ワークシート」
- その2 思考力を高める「授業案」
- その3 世界・日本の「白地図」
- その4 ソート機能付き「最新統計」

ほかにもコンテンツを順次掲載中!

まずはお申し込みを!

Step 1

小中学校
指導者専用サイト

スマートフォン・
タブレットにも対応



↑帝国書院ウェブサイトトップページのバナーをクリック!
URLはこちら↓
<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>

↑スマートフォン・
携帯電話の方は
こちらから

Step 2

「新規登録はこちら」から、
利用規約にご同意のうえ、必
要事項を記入し、お申し込み
ください。

Step 3

およそ1週間以内
にID、パスワード
記載の登録者証
をご勤務先へ郵送
します!

収録コンテンツのご紹介

※編集作業中のため、内容は変更・修正する場合があります。

動画

アルゼンチン パタゴニア



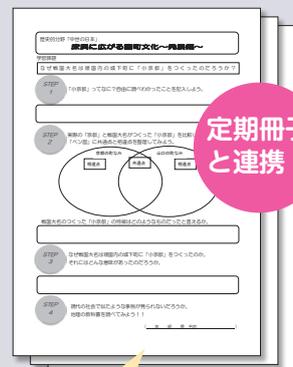
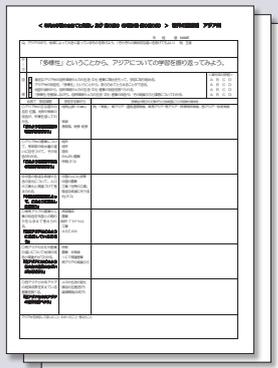
アラブ首長国連邦(UAE)



さらに
充実!

登録者限定! プレミアム写真館に動画を掲載!
世界各地の貴重な取材映像を公開しています!

授業研究コーナー対応ワークシート



定期冊子
と連携!

*イメージ画像は2019年度
1学期号のワークシートです。

定期冊子「中学校 社会科のしおり」授業研究をご執筆
の先生方による授業案に沿ったワークシートを掲載!



帝国書院 資料編集部

TEL 03-3262-0831 FAX 03-3262-0840
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>

2019年9月発行
©帝国書院 2019